

◎景気ウォッチャー調査[2022年11月]

2022年11月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.4ポイント下回る49.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス感染症に加え、あらゆる商品の値上がりにより、客の節約志向が強まっている。」(百貨店)、「3か月前と比べると景気は悪くなっている。休日のディナータイムも状況が悪く、夜9時以降は客がほとんどいない。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.9ポイント下回る48.5となった。

企業動向関連は、「全体の注文数量は横ばいであるが、季節商材の注文数量が増加傾向にある。」(食料品製造業)、「値上げ状態は継続しているが、景気全体は少しずつ良くなっている。」(化学工業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント上回る48.5となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「経済活動は平常化、活発化に向かっているが、原価や光熱費の上昇を価格に転嫁することが容易でないため、業種を問わず企業の利益が圧迫されている。」(新聞社)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.9ポイント下回る55.9となった。

	11月	10月	前月差
合計	49.2	50.6	-1.4
家計動向関連	48.5	50.4	-1.9
企業動向関連	48.5	47.7	0.8
雇用関連 (参考値)	55.9	57.8	-1.9

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.4ポイント下回る48.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し、「今後も、光熱費及び生活必需品等の値上がりが続き、消費者の所得環境が改善されないため、客の節約により売上が減少する。」(スーパー)、「新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いておらず、物価の上昇もあり、客の節約志向が一段と強まることから、景気は悪くなる。」(美容室)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.7ポイント下回る47.4となった。

企業動向関連は、「今後も原材料の価格高騰や物価高による影響を受ける。コロナ禍での巣籠り需要の頭打ちで、生産計画も減少する。」(一般機械器具製造業)、「取引先の設備投資が落ち着いてきており、主力となる半導体製造装置関連の受注量も減少する。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント下回る49.2となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「円安が止まり、一部企業の採用意欲が回復する。」(人材派遣会社)、「人の動きが増え、業況が少し良くなっている観光スポットが出てきたり、コロナ禍で休業していた店舗が営業を再開したりするなど明るい動きがあることから、今後、景気はやや良くなる。」(職業安定所)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント上回る54.4となった。

	11月	10月	前月差
合計	48.5	48.9	-0.4
家計動向関連	47.4	48.1	-0.7
企業動向関連	49.2	51.5	-2.3
雇用関連 (参考値)	54.4	50.0	4.4